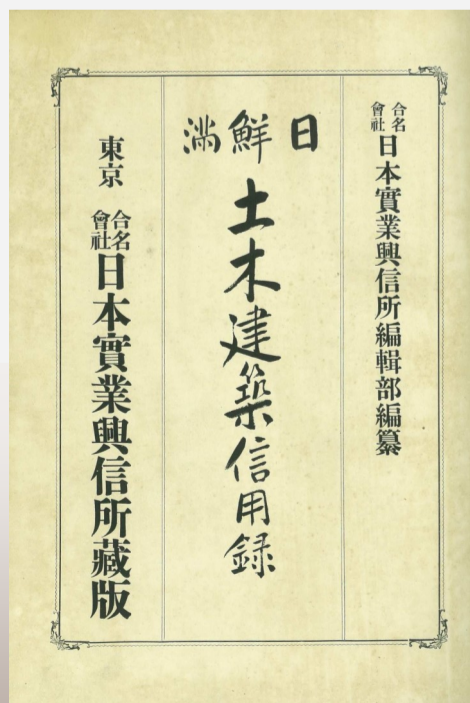


## 土木建築請負業とは

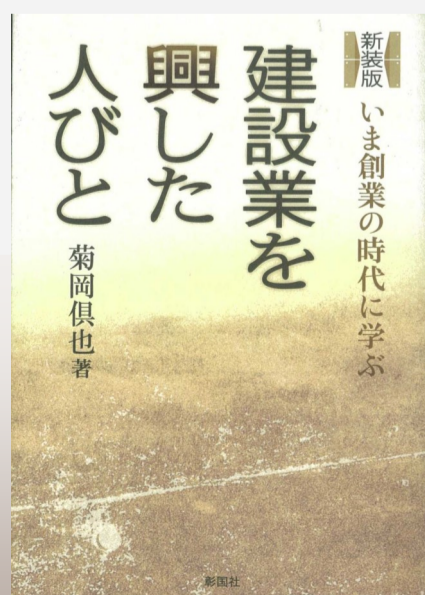
「建設業」という名称が使われるようになったのは、戦後になってからであり、それ以前には建設業は「土木建築請負業」や「請負業」と呼ばれていました。明治以前、工事の多くは施主による直営形式でしたが、明治に入ると大規模な工事が増加するなかで、「請負」（請負人が完成を約し、施主がそれに対して報酬を支払う形式）が主流となっていきました。

## 明治期の土木建築請負業に関する当館所蔵資料

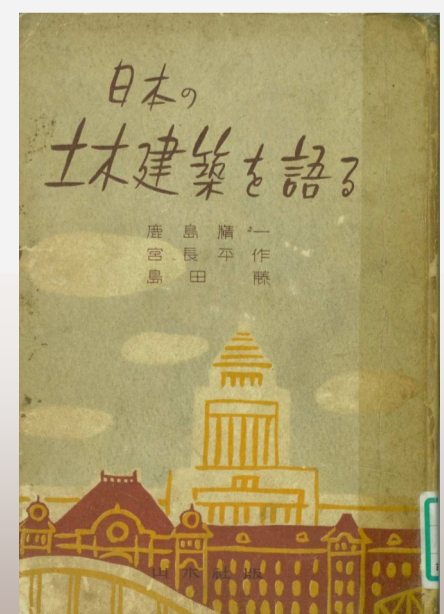
- 『日朝清土木建築業者信用録』 日本実業興信所(編)／日本実業興信所 1912年  
『日鮮満土木建築信用録』 日本実業興信所(編)／日本実業興信所 1913年  
『土木人を語る』 石黒多八・津田誠一／事業展望社 1936年  
『日本の土木建築を語る』 島田藤・鹿島精一・宮永平作／山水社 1942年  
『建設業物語』 土持保・太田通／彰国社 1957年  
『鹿島組史料』 菅野忠五郎(編)／鹿島建設 1963年  
『日本鉄道請負業史 明治篇』 鉄道建設業協会(編)／鉄道建設業協会 1967年  
『風雪の百年 北海道建設業界史』 北海道建設新聞社(編)／北海道建設新聞社 1970年  
『日本土木建設業史』 土木工業協会・電力建設業協会(編)／技法堂出版 1971年  
『建設人物史 上巻』 津田誠一／建設人社 1992年  
『につぼん建設業物語 近代日本建設業史』 建設業を考える会／講談社 1992年  
『わが国建設業の成立と発展に関する研究—明治期より昭和戦後期 芝浦工業大学博士学位論文』 菊岡俱也／田中良寿 2005年  
『建設業を興した人びと いま創業の時代に学ぶ』(新装版) 菊岡俱也／彰国社 2012年  
など



『日朝満土木建築信用録』(本扉)



『建設業を興した人びと』



『日本の土木界を語る』